

森と木に関する 生き方を めざす人へ



newsletter no.015

2014.12

岐阜県立 森林文化アカデミー

人とつながりを実感

株式会社ヨシカワ 石丸 英治（11期生）

アカデミーを卒業してもうすぐ2年になります。私が勤めている会社は、建設機械やその関連機器などをレンタルリースしている会社で、林業機械も多く取り扱っています。林業会社を相手に仕事をすることもあり、在学中に林業関係の方々にお会いしたこと、同期学生とのつながり、アカデミーの先生方との縁、これらが今の僕には助けとなっています。

代表的な林業機械には、ハーベスター、グラップル、フォワーダなどがあります。これらの機械は、日々のメンテナンスが必要であり、使用にあたってのアドバイス、注意事項、動作の調整等を行うことが重要です。一つの確認ミスが事故や災害に繋がりかねません。また扱う樹種や作業場のレイアウトなど林業現場の状況は様々であり、機械を操作するオペレーターの使い方もいろいろです。各現場やオペレーターに合わせた機械の選択や調整がとても大事です。現在は、一般土木の現場を中心に修理や点検業務を行い、技術を習得しています。

林業機械の搬入立合いや、巡回点検を行うこともあります。機械を扱うにあたり感じることは、資格や経験、運転や操作のセンスが必要です。また人間相手の仕事でもあるので、うまく人とコミュニケーションすることも必要です。

人とのつながり、林業や機械について知識や技術、総合力が求められる職場で、日々汗を流しながら、こう感じています。アカデミーの二年で今の自分がある。



「10年」

神谷建築スタジオ 主宰 神谷 義彦（2期生）

2期生（2004年卒業）の神谷です。アカデミーを卒業して10年経ちます。私は卒業と同時に独立をし、設計事務所を愛知で立ち上げましたので、開業して10年ということになります。

卒業後、即独立というのは、1期生、2期生では結構いたのです。そもそも何の実績もない学校へ仕事を辞めてまで来るぐらいですから、開学当初のアカデミーには変わり者、いや、意欲に燃えた方々が多かったかもしれません。

そんなこんなで10年経ち、20を超えるプロジェクトに携わることができています。数としては決して多いものではないかもしれません、一つ一つに真摯に向き合い築き上げてきた実績と呼べるものだと思っています。

実は先ごろ自邸兼新スタジオを新築しました。零細企業の身としては大変な決断です。ですが、今後も地域に根付き、活動をしていく拠点としてはどうしても必要なものだと思っていましたので決断をしました。地域に根付き地域から情報を発信していく。奇しくもアカデミーの開学理念に沿った活動をしているのだと実感しつつある今日この頃です。お近くに来られましたらお気軽に遊びに来てください。庭仕事手伝ってもらいます。



森と木の仕事セミナー

森林・林業 山村活性 環境教育 木造建築 木工・木育

東京 12月14日（日）・岐阜 1月4日（日）

エコプロダクツ2014
に出展します。

12月11日（木）～13日（土） 東京ビックサイト

森と木のクリエーター科



林業再生



山村づくり



自然体験活動指導者
インタークリエーター養成



木造建築



ものづくり



（森林・林業、木材利用）

岐阜県立森林文化アカデミーは、森林を多面的に活用し、新たな森林文化の創造に寄与できる人材を育成する2年制の専修学校です。

大卒または実務経験者が対象の森と木のクリエーター科では「林業再生」「山村づくり」「木造建築」「ものづくり」のいずれかの講座に所属して専門的に学び、高卒以上の人を対象とする森と木のエンジニア科では、全員が「森林・林業・木材利用」を学びます。

より詳しい情報は、森林文化アカデミーHPへ。教員や学生がつくるブログは、学校の雰囲気がよく分かります。

森林文化アカデミー

検索

木工の世界が広がるアカデミーでの学び

木工作家 吉川 和人（12期生）

私は東京でインテリア関係の会社員を経て、アカデミーに入学しました。学校選びに当たりアカデミーに決めた理由としては、教授陣のラインナップが林業、環境教育、木造建築、里山再生など、広い観点から森と木を捉えていたことが大きな要因でした。

東京で会社員をしながらぼんやりと思っていた、インテリアのようなモノの材料としての木だけではなく、例えば郊外の小さな林や街路樹のような樹のある空間が生活全体の潤いをもたらすものとして、改めて捉えなおすことができるのではという考えを検証するのにとても良い環境でした。

また、思っていたより大きなアドバンテージとなったのは岐阜は全国からあらゆる種類の材料が集まってくる場所であったということです。生産現場や市場、様々な銘木店を見たり、実際に話を聞くことによって広い知識を得ることが出来ました。

ただ製材した板を仕入れて加工する環境ではなく、素材を源流までさかのぼって性質や成り立ちを知ること、体験することこそが、素材にとって無理の無いデザインや美しい形状を実現するのに不可欠だと考えています。

今後の仕事としては、製作だけではなく、岐阜で得た知識や経験をワークショップなどで一般の人とシェアする活動もして行きたいと思っています。



住民に自信と誇りを

馬瀬地方自然公園づくり委員会 天池 信正（12期生）

全国各地の中山間地は、過疎化と高齢化に悩まされています。私が移り住んでいる下呂市馬瀬地区も同じで、この10年間で人口が2割も減りました。過疎・高齢化は止めることが出来ません。これを解決するためにできることは、住民が元気に暮らし、そのスピードを緩めることだと思っています。その方法の一つとして、今年5月に「馬瀬里山ミュージアム」を立ち上げました。活動を通じて住民が地域の資源を見直し、それを大事に保全し、子供達や多くの外の人に伝えることにより自信と誇りを持つことが目的です。

手始めに「魚付き保全林」を指定し、渓流魚に優しい環境を保全管理することの重要性を住民に理解してもらいました。次に都市部の人と地区住民がふれあうミニツアーを始めました。最初は苦労の連続でしたが、回数を重ねるうちに住民がツアー参加者に農産物の販売を始め、ついに自立への一歩を踏み出しました。即ち自信と誇りを持ち始めたのです。

私は住民と一緒に悩み、汗をかき、人々が自信と誇りを持てるように日々お手伝いをしています。



依存から自立へ 新たな価値観のメッセンジャー

NPO法人 都留環境フォーラム 西岡 里子（10期生）

私は図書館司書として5年間働いた後、森林文化アカデミーに入学しました。きっかけは、屋久島でのエコツアーエクスペリエンス。自然とぐっと近くなれた感覚に「私も自然の中でこの感動を伝えたい！」と、人生の舵を切ったのです。

アカデミーでは、キャンプや観察会などの実践を通して、人と自然のつなぎ方を学びました。人前に立つのが苦手な私は挫折の連続でしたが、「何とかやる！」ところに立てたことが、大きな財産になっています。

アカデミーを卒業し、山梨県都留市で活動しているNPO法人都留環境フォーラムで働きはじめて3年目。大切にしているのは、実践者であること、そして地域や社会に貢献すること。

依存から自立へ、持続可能で豊かな暮らしのある社会を提案していくため、農的暮らしの体験イベントや、活動をまとめた本を出版しています。そして、2014年から馬を飼いはじめました。化石燃料に頼らず馬で田畠を耕す馬耕を伝えるために、日々奮闘中です！



アカデミーでの学びの集大成

課題研究公表会 2月16日（月）～18日（水）

森と木のエンジニア科 入試日程

一般入試2 2015年 1月24日(土)

一般入試3 2015年 3月 7日(土)

※一般入試3は一般入試2終了後、定員数を満たしている場合には実施しません。

森と木のクリエーター科 入試日程

一般入試3 2015年 1月25日(日)

一般入試4 2015年 3月 8日(日)

※一般入試4は一般入試3終了後、定員数を満たしている場合には実施しません。

詳しい予定は2月頃HPで公開。
どなたでもお聞きいただけます。

インフォメーション

岐阜県立 森林文化アカデミー

〒501-3714 岐阜県美濃市曾代88番地

tel : 0575-35-2525 fax : 0575-35-2529

mail : info@forest.ac.jp

ホームページ : <http://www.forest.ac.jp>

アカデミーブログ : <http://gifuforest.blogspot.jp/>

facebookページ : <http://www.facebook.com/forest.academy>

※最新情報はホームページをご覧ください。